

第2回「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会次第

令和5年3月7日 14:00～
ポールスター札幌 4階「ライラック」
(札幌市中央区北4条西6丁目)

1. 開会挨拶

2. 議 題

(1) 令和4年度活動報告について・・・ 【資料1】

(2) 今後に向けた本研究会での検討内容について・・・ 【資料2】

<休憩>

(3) 令和5年度事例研究会行動計画(案)について・・・ 【資料3】

3. 全体意見交換

4. 閉会挨拶

「とんぼの未来・北の里づくり」
令和4年度第2回事例研究会参加者名簿

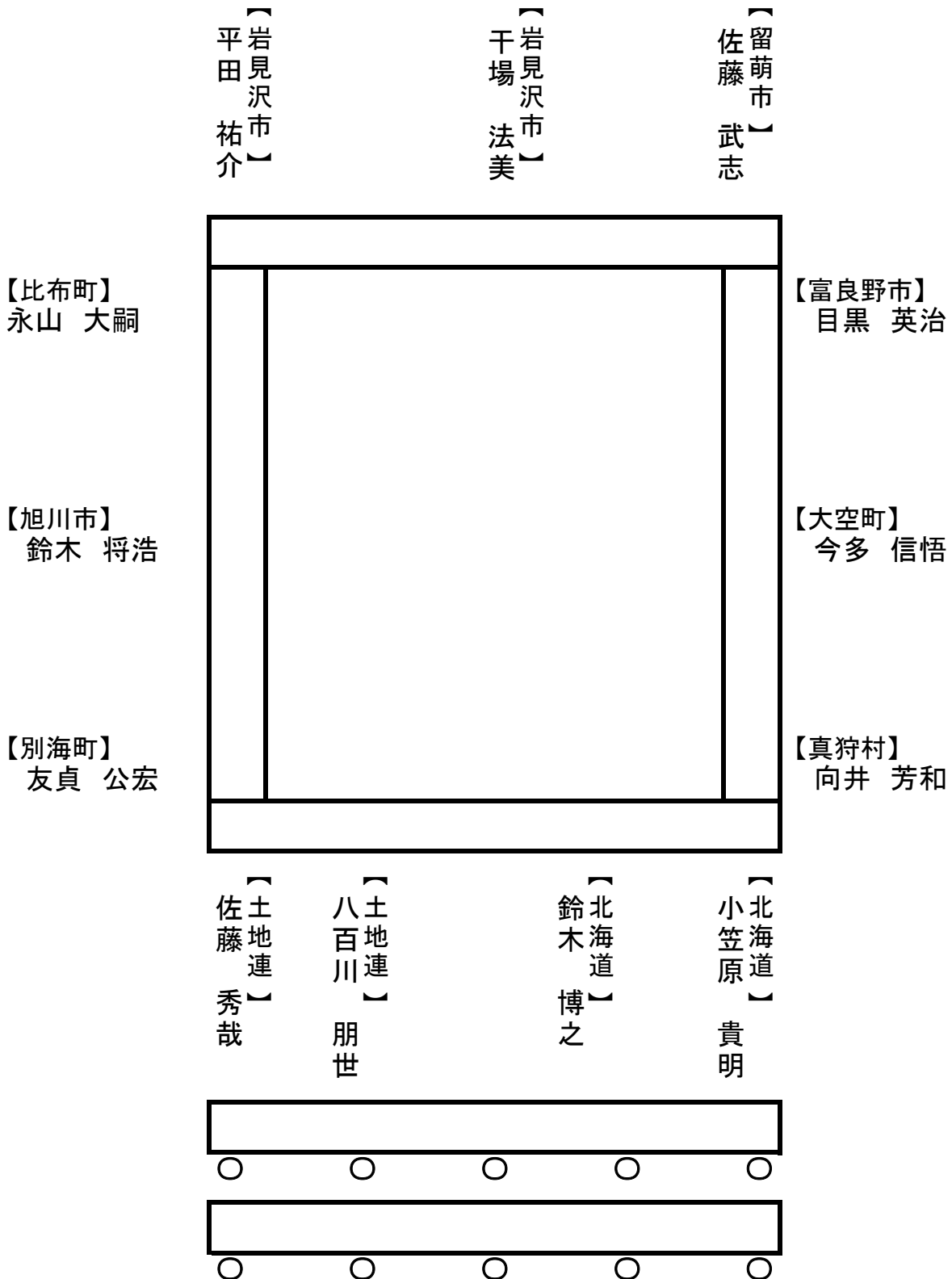
No	局名	市町村名	区分	地帯	組織名	役職	氏名
1	空知	岩見沢市	組織	田	岩見沢市広域協定	代表	干場 法美
2	上川	比布町	団体	田	大雪土地改良区 建設課	課長補佐	永山 大嗣
3	上川	旭川市	団体	田	旭川土地改良区 建設課	課長	鈴木 将浩
4	留萌	留萌市	組織	田	NPO法人るもい農業応援隊	事務局長	佐藤 武志
5	上川	富良野市	組織	畑	富良野東部地区環境保全会	顧問	目黒 英治
6	オホーツク	大空町	組織	畑	大空町広域協定運営委員会	会計	今多 信悟
7	後志	真狩村	組織	畑	まっかりニコニコクラブ広域協定	会長	向井 芳和
8	空知	岩見沢市	行政	田	岩見沢市農政部農業基盤整備課基盤整備係	主事	平田 祐介
9	根室	別海町	行政	草	別海町産業振興部農政課	主事	友貞 公宏
10			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	多面的機能支払係長	鈴木 博之
11			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	主査	小笠原 貴明
12			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	課長	八百川 朋世
13			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	副主幹	佐藤 秀哉

※欠席者：小嶋主事(岩見沢市)、藤川会長(音更町)

	随行	大空町	組織		一般社団法人アグリーサポート	業務主任	福田 幸弘
			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	活性化担当課長	勝海 勇人
			道協議会		水土里ネット北海道技術部	部長	平田 孝祐
			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	課長補佐	城野 直哉
			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	主任	朝岡 紫
			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	指導役	金津谷 博一
			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	指導役	寒河江 茂芳
			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	指導専門員	千葉 正志
			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	指導専門員	鷺見 栄一
			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	技師	石川 雅樹

「とんぼの未来・北の里づくり」
令和4年度第2回事例研究会 配席図

令和5年3月7日(火)14:00～
ホテルポールスター札幌 4階「ライラック」



「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会 設置要領

平成 29 年 12 月 14 日制定

令和元年度 11 月 26 日改正

1. 趣旨

北海道における農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、多面的機能支払事業における効果的な活動事例などの情報収集を行い、各々の地域の状況に応じた更なる活動の充実・発展を図るために、事例内容について検討を行い、発信等を行うことを目的として、この会を設置する。

2. 構成

本会は、11名の活動組織構成員、6名の市町村職員と各2名の北海道及び北海道土地改良事業団体連合会職員の計21名程度で構成する。

- (1) 活動組織構成員は、水田地域4名、畑地域4名、草地域3名の次世代にわたる農業者等の11名程度とする。
- (2) 市町村職員は、水田地域、畑地域、草地域の本事業を担当する者から各々2名の6名程度とする。
- (3) 北海道及び北海道土地改良事業団体連合会職員は、北海道日本型直接支払推進協議会事務局から各々2名の4名程度とする。
- (4) その他、必要に応じて指導助言・意見聴取のため、第三者を招集することを可能とする。

3. 活動内容

本会では、次の活動を行うものとする。

- (1) 本事業における効果的な活動事例や要望の多い活動事例などの情報収集
- (2) 事例内容についての検討及び必要に応じた調査
- (3) 活動組織及び市町村等へ活動事例や検討結果等の情報発信
- (4) 北海道地域活動指針に追加すべき活動項目の抽出・調査・検討
- (5) その他多面的機能支払事業の効果的な取組に必要な事業等

4. 主管

北海道日本型直接支払推進協議会

5. 庶務

北海道日本型直接支払推進協議会事務局

(北海道土地改良事業団体連合会技術部地域支援課)

6. その他

この要領に定めるもののほか、本会の設置、運営等に関し必要な事項は別に定める。

「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会

R5.1時点

会員No	局名	市町村名	区分	地帯	組織名	役職	氏名	入会年度
1	空知	岩見沢市	組織	田	岩見沢市広域協定	代表	干場 法美	R1
2	空知	岩見沢市	組織	田	北海土地改良区 総務課	主事	小嶋 凌太	R1
3	上川	比布町	組織	田	大雪土地改良区 工務課	課長補佐	永山 大嗣	R4
4	上川	旭川市	組織	田	旭川土地改良区 建設課	課長	鈴木 将浩	R1
5	留萌	留萌市	組織	田	NPO法人るもい農業応援隊	事務局長	佐藤 武志	R1
6	上川	富良野市	組織	畑	富良野東部地区環境保全会	顧問	目黒 英治	R4
7	十勝	音更町	組織	畑	東十幌環境保全会	会長	藤川 征二	R4
8	オホーツク	大空町	組織	畑	大空町広域協定運営委員会	会計	今多 信悟	R4
9	後志	真狩村	組織	畑	まっかりニコニコクラブ広域協定	会長	向井 芳和	R1
10	空知	岩見沢市	行政	田	岩見沢市農政部農業基盤整備課基盤整備係	主事	平田 祐介	R4
11	根室	別海町	行政	草	別海町産業振興部農政課	主事	友貞 公宏	R3
12			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	多面的機能支払係長	鈴木 博之	R3
13			道協議会		北海道農政部農村振興局農村設計課	主査	小笠原 貴明	R4
14			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	課長	八百川 朋世	R4
15			道協議会		水土里ネット北海道技術部地域支援課	副主幹	佐藤 秀哉	H29

令和4年度

第2回「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会資料



「とんぼの未来・北の里づくり」事例研究会

令和4年度活動報告について

資料1

行動計画			活動実施
1	R4.4	会員の推薦依頼および委嘱手続き	・新規会員の参画等 (永山課長補佐、目黒顧問、藤川会長、今多会計、平田主事)
2	R4.12.6	第1回事例研究会開催 ・本研究会過年度の活動報告 ・令和4年度行動計画(案) ・現地視察研修について ・制度見直しに係る要望等	R4.12.6 第1回事例研究会開催 場所：(札幌市)ポールスター札幌2階「コンチェルト」 会員15名参加(欠席：正田主事)、オブザーバー9名参加
3	R4.12.7～9	現地視察研修 全道事例発表会での発表を見据えた自然災害や異常気象時の対応等の取組み事例の収集	R4.12.7～9 現地視察研修開催 視察者：11名(干場代表、鈴木課長、藤川会長、今多会計、向井会長、平田主事、友貞主事、鈴木係長、小笠原主査、八百川課長、佐藤副主幹) 視察先：鳥取県・島根県における自然災害や異常気象時の対応等の取組み事例等
4	R5.1～2		2の成果とりまとめ等 視察研修成果取りまとめ：平田主事
5	R5.2.1	全道事例発表会 ・事例発表 ・多面的機能支払制度に資する研修 ・連絡事項	R2.2.14 ロイトン札幌「ロイトンホール」 出席者736名、会員15名参加 視察研修報告：事例研究会及び現地視察研修の概要について 発表者：藤川会長、今多会計、鈴木係長、八百川課長
7	R5.3.1	第2回事例研究会開催 ・令和4年度活動報告について ・今後に向けた本研究会での検討内容 ・令和5年度行動計画(案)	R5.3.7 第2回事例研究会開催 場所：(札幌市)ポールスター札幌4階「ライラック」 会員13名参加(欠席：小嶋主事、藤川会長)、オブザーバー10名参加

本交付金の円滑な推進に向けて、事例研究会において検討をしたいこと

地域で課題となっていること	検討内容	メモ
<p>岩見沢市広域協定 代表 干場 法美</p> <p>農家戸数の減少に伴い、戸当たりの面積が増加し農地が広範囲に点在していることから、複数の協力会に加入し活動を行っている現状にあります。 事務負担の軽減、組織の事業継続を行うためにも岩見沢市の広域協定の中にあって活動の更なる展開・方法はないのか</p>	<p>岩見沢広域協定の中に31の協力会があり、それぞれの取組、会計が異なりますので課題を出し合って協議して今までに徐々に統合している協力会の手法も参考にして、8協力会ある栗沢地区を一つにすることで枠をさらに超えた農村コミュニティの強化を図る。 総体の事務負担軽減は確実に下がり、農業者が大きな範囲で農地を確認することが出来る。</p>	
<p>大雪土地改良区 工務課 課長補佐 永山 大嗣</p> <p>(1) 草刈り等の共同活動の参加者不足</p> <p>(2) 農業者以外の共同活動の参加者の減少</p>	<p>(1) 草刈り等の共同活動の参加者不足への対応</p> <p>(2) 農業者以外の共同活動の参加者減少への対応策</p>	
<p>旭川土地改良区 建設課 鈴木 将浩</p> <p>令和元年度に各組織の手法等を継承した形で広域化し、段階的に統一していく事としおり、会計（通帳）の一本化は今年度（R4年度）より実施したが、予算の一本化について現在協議を進めている。 しかしながら、旧組織単位の面積で交付金が交付されてきた事から、構成員の旧組織の交付金（予算）という概念を払拭する事が難しい状況にある。補修工事等を行いたい地区の面積が少なく予算の足りない地区や、予算を有効的に活用できている地区、国営事業等が本格化し予算を持越す地区など、広域組織の地区で予算の活用状況にバラつきがある事から、事務局として予算を最大限有効的に活用するため、旧組織単位の交付金という概念は捨て、広域組織としての予算という認識を強めていきたい。次年度以降も引き続き協議を継続し、統一に向けて進めていきたい。</p> <p>女性の参画について、当組織としても積極的に取り組んでいきたいと考えているが、中々実現できていない状況である。 理由としては、やはり男性社会で生きてきた人達が役員となっており、女性が参画しづらい環境にある。事務局として、女性の方が持つ柔軟な思考や、男性とは違った角度からの切り口など、女性の意見が組織運営に役立つ事が大いに考えられる。そうした事から、これからの時代は女性の意見が必要となってくるという事を、現職役員に訴えていき、女性の役員登用を目指していきたい。実際に女性が役員となった場合、周りは男性役員ばかりの中で発言しづらい状況が懸念されるため、女性を役員登用している先進地の視察研修を企画し、女性が発言しやすい役員体制の構築に取り組んでいきたいと考えている。 道協議会の把握している範囲で結構ですが、女性役員の登用等、女性が積極的に活動に参加している事例地区があればご紹介頂きたいと考えております。</p>	<p>学校教育との連携で、令和元年度に地元の小学校と協議し、他事業（旧国営造成施設管理体制整備促進事業）での水利施設見学を含めた、多面的交付金での学校教育との連携を計画していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。最近は行動制限等が緩和傾向にあるため、R5年度に再度協議しR6年度以降の学校行事に組み込んでもらえるよう働きかけを行っていく。</p>	

地域で課題となっていること	検討内容	メモ
<p>NPO法人るもい農業応援隊 事務局長 佐藤 武志</p> <p>保全隊組織の役員が高齢化しており、今後の事業の運営に関する継承について。</p> <p>共同活動などは施設の管理が中心になるので受益者が多く活動は出来ているが、事務や事業運営については若い世代の人の協力が少なく、事業運営には積極的ではないので、事業自体の理解も含めて、今後は若い世代への事業の目的、事業の運営についての研修が必要になってきていると考えられる。</p>	<p>保全隊活動に対する知識や理解を深めてもらうため、水土里ネット北海道での地域ごとの研修や共同活動の事例などを紹介し、参考にってもらう講習会の開催。</p>	
<p>富良野東部地区環境保全会 顧問 目黒 英治</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人達（35歳～50歳）の考え方が個人主義になりつつある。このような人達が主体の組織になると、農業用施設を保全し、集落のコミュニティを維持する前向きな取組に足並みが揃わなくなる。 保全会の作業は、世帯主が中心という形になっており、20代から30代の若者は、多面的機能の活動に参加が無く、また、集落のお祭りなどで若手農業者を含め多くの集落民が集まることがないので、益々集落への思いが若手農業者に育たない。 若手農業者を含め住民にとって、集落のコミュニティ機能の意義が薄らいでいる。それと一緒に多面的機能支払交付金の意義も薄らいでいる。 実践活動や会議等に出席しながら、集落を大切に思う気持ちが実り、役員の年になったとき地域を引っ張ることができないのではないか。今、人づくりを怠り、地域愛がなくなった人がリーダーになったとき本交付金の目的を達成できない。集落のコミュニティ機能（人とのつながり、共同体的な精神、歴史、文化、お祭りなどの各種行事など）の大切さを認識し、集落づくりの観点から多面的機能支払交付金を考えるような人づくりが急務と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 国の会計検査などを意識し、適切な活動を行うよう書類の整理などの指導・助言することは理解するが、集落が衰退していく中、集落の維持・活性化の面から何かできるかを考えないと多面的機能支払交付金の持続化も図れない。 この会議は本制度について、会員の人たちで検討する会議であり、そして、新たな活動を模索して全道に広めるのが役割であると考え。 集落を維持・活性化する観点から、若手農業者の集落への意識の醸成と活動への参加を含め、多面的機能支払交付金を活用した取組内容を検討したり、このような観点から取組んでいる本州の事例を視察することを検討すべきである。 	
<p>大空町広域協定運営委員会 会計 今多 信悟</p> <ul style="list-style-type: none"> 網走湖、藻琴湖が土砂により浅化状態にあり、農用地からの土砂流出を未然に防ぐ活動取組。 (別紙：参考資料) 		
<p>まっかりニコニコクラブ広域協定 会長 向井 芳和</p> <p>1) 資源向上（伝統的農法）</p> <p>39 田植え・稲刈り体験について</p> <ul style="list-style-type: none"> 御保内小学校の閉校に伴い、この活動の引継ぎ先 <p>47 小豆収穫におう積み</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢農業者が増え、この活動継続が危ぶまれる <p>2) 女性役員について</p> <ul style="list-style-type: none"> 私達の組織では女性役員がいませんので登用を検討 	<p>1) 39 学校教育との連携として</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たにスクールコミュニティ組織が立ち上がる予定 その組織と連携出来ないか、検討中 <p>2) 女性役員について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で会議方法を変えた経験を生かし、ズーム会議で女性役員が参加しやすい環境づくりを構築中 <p>※ ・現在、女性役員が全道でどのくらい活躍されているのか。数、比率が知りたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の組織で効率が良い会議方法があれば参考にさせて貰いたい。 	

地域で課題となっていること	検討内容	メモ
<p>岩見沢市農政部農業基盤整備課基盤整備係 主事 平田 祐介</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物価上昇に伴う取組の減少（例：砂利の価格上昇） ○長年の課題ではあるが、役員の高齢化→若年・中堅層が引継ぎするタイミングを逃し、毎年同じ役員 ○女性農業者の役員としての活躍の場がなかなか無い→昔からの慣習があり、役員に上がることが難しくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ○事務負担の軽減 ○共同活動の更なる展開 	
<p>別海町産業振興部農政課 主事 友貞 公宏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外注費の高騰による活動規模の縮小 ・構成員の高齢化（活動参加者の世代交代が見えてきている状態ではない） ・若年層の参加率の低下に伴う本事業に対する認識の薄れ ・組織内における地域（町内会）ごとの活動量の差 	<ul style="list-style-type: none"> ・草地地帯における本事業制度の拡充 	

令和5年度 事例研究会行動計画（案）

R5.3.7現在

1	R5.8	第1回事例研究会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 地方裁量の活用検討 現地視察研修計画の策定
2	R5.12	第2回事例研究会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 現地視察研修について 収集すべき事例の検討
3	R5.12	現地視察研修	<ul style="list-style-type: none"> 2泊3日行程を想定 ※全道事例発表会での発表を見越した開催を想定。
4	R6.3	第3回事例研究会の開催	<ul style="list-style-type: none"> R5年度の本研究会の活動成果報告 R6年度の行動計画案の策定 新制度に向けた情報提供
		草地带分科会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 適宜実施

	R6.2	全道事例発表会	<ul style="list-style-type: none"> 活動事例の発表、現地視察研修の発表
	未定	女性参画の推進に資する意見交換会等の開催	<ul style="list-style-type: none"> 時期や開催方法等は今後検討する

- ※ 道外から視察研修の申し出があった場合は、本研究会の会員も都合がつく範囲で出席する。
- ※ 全国事例研究会等の開催に際し、発表者やパネリストの推薦依頼があった場合は、本会員からの推薦も検討する。